

令和3年度 佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【中学校】

<佐世保市の結果・改善策等について>

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第1学年・・・1, 977名

2 教科別領域別結果

教科	国 語							数 学				
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	全体
市平均正答率	74.6	75.5	53.6	68.8	68.8	64.1	69.8	75.2	66.5	55.8	61.7	65.7
全国平均正答率	76.4	76.4	58.5	69.4	71.4	64.2	71.4	76.3	69.7	58.9	64.9	68.2
全国比達成率%	97.6	98.9	91.7	99.1	96.4	99.9	97.8	98.5	95.4	94.7	95.0	96.3

3 課題と分析及び改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率		改 善 策 (例)
		市	国	
		自校		
国 語	○ 意図に応じて、質問を工夫している。			<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識として、言葉の意味や「文の成分」について、反復学習をして定着させるとともに、日常生活の中で使われている文章や説明文・小説などの散文を活用して、言葉の使い方や意味を理解できる活動などを入れる。 自分の考えとその理由を明確に書くことができるために、主張、事実、理由付けを明確に区別する三角ロジックを使って意見を書く活動に取り組みせるとともに、「なぜ、そう考えるのか」と「自分はどうか考えるのか」ということを常に問いかけながら、物事を考える活動を仕組んでいく。
	○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。			
	▲ 文法・語句に関する知識【3(1, 2, 3)】 ※数値は、三つの平均	56.3	61.3	
	■ 指定された長さ、三段落構成自分の考え及び理由の明確にして書いている。【7】 ※数値は、それぞれの条件の平均	64.2	67.5	
数 学	○ 比の式について理解している。			<ul style="list-style-type: none"> 「図形」領域に限らず、求め方を言葉の式で表す活動を取り入れる。また、求め方を立式した後、説明する場面で「この式で何を求めたか」を明確化した説明ができるように仕組んでいく。 「数量関係」領域では、視覚的に捉えやすく、日常生活にそった内容を取り入れた授業展開を工夫する。
	○ 円グラフを読み取ることができる。			
	■ 円周の長さを求める式を選ぶことができる。【9】	50.5	63.6	
	■ 歩合について理解し、割引後の代金を求める式を選ぶことができる。【16(2)】	49.8	56.8	

II 長崎県学力調査

1 国語・数学

(1) 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第2学年・・・1, 947名

(2) 教科別領域別結果

教科	国 語					数 学				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と式	図形	関数	資料の活用	全体
市平均正答率	53.3	31.7	47.0	81.9	57.6	49.3	38.6	32.6	45.8	42.2
県平均正答率	56.9	36.6	51.0	85.8	61.6	57.1	44.6	40.3	52.1	49.2
県比達成率%	93.7	86.6	92.2	95.5	93.5	86.3	86.5	80.9	87.9	85.8

(3) 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率	改 善 策 (例)
		市 県 自校	
国 語	▲ 根拠を示して書く 【3 (三)】	31.6	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を書く際に、その根拠が適切であるかどうかを意識する授業を行う。(令和元年度授業アイデア例)自分が読み手に伝えたい意見内容を決め、伝えたいことにふさわしい根拠について考え、資料を収集する。収集した資料が、伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。助言をもとに意見文を作成する。ただし、資料が根拠としてふさわしいと判断する視点を、明確に与えることが重要となる。 推敲の授業を充実させる。例えば、モデル文章の中に、一文が長いものを入れ、その文を発見させるとともに、どこで切るのが適切なのか、その根拠を答えさせる。長い文を使用すると、文意がねじれてくることも体感させるなど、短く簡潔な文章を書くことができるよう指導する。 条件作文は上達している傾向が見られるので、読み取りと関連付けた条件作文の授業を構築する。読み取りの学習は、何を読み取らせるのか意図をもって行う。例えば、複数のテキストからの読み取りの場合は、それぞれがどんな目的で使われているのか、その意図や関係性を理解させることが大切である。文章のジャンルや発達段階に合わせて、学習指導要領の指導事項のどこに該当するのか、明確に意図をもち、授業を行うことが重要である。読み取ったことをもとに、条件に沿って記述するためには、記述した文章を読み直し、条件にあっているか、自分自身で推敲する力が必要となる。一度書いたものを、消して書き直すのではなく、線を引いて削除したり、追加で書き入れるなど、推敲の跡が見える記述学習を行う。
		40.4	
	▲ 一文を二文に分けて書く 【3 (一)】	23.9	
		27.3	
▲ 内容を捉えて説明する 【2 五(3)】	16.2		
	21.2		
数 学	○ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。		
	▲ 自然数を素数の積で表すことができる。【1 (2)】	33.7	<ul style="list-style-type: none"> 知識として定着させるため、既習事項を定期的に復習する場面を設定する。さらに、「素因数分解」などの用語は、視覚的な情報として掲示するなど工夫する。 能率よく解を求めるために、$x = k$の形に変形する過程に沿って、解法の手順をまとめる場面を設定する。また、分数から整数に変形する良さを実感させる活動を設定する。 関数領域については、「式」「グラフ」「表」の特徴をおさたうえで、相互に関連付けた課題を設定するなど、それぞれの性質と良さを実感できる活動を仕組む。 作図の方法を生徒が見い出したり、作図によって表された図から何がわかるのか、また具体的な場面で作図をどのように活用するのかを考察したりする場面を設定する。
		47.5	
	■ 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。【2 (2)】	35.6	
		45.5	
	■ 反比例のグラフから、 x と y の関係を式に表すことができる。【4 (2)】	23.6	
35.1			
■ 条件を基に、問題解決の方法を数学的に説明することができる。【7 (2)】	18.6		
	24.7		

2 英語

(1) 調査対象・人数

(英 語) 中学校及び義務教育学校後期課程 第3学年・・・1,920名

(2) 教科別領域別結果

教科	英 語				
	話す	聞く	読む	書く	全体
市平均正答率		61.3	62.0	25.2	51.8
県平均正答率		64.4	66.6	31.9	56.6
県比達成率%		95.2	93.1	79.0	91.5

(3) 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率	改 善 策 (例)
		市	
		県	
		自校	
英 語	○ 日常的な話題についての対話を聞き、あとの質問に対する答えを表す絵を選ぶことができる。 ○ 文脈から判断し、接続詞becauseを適切に用いて、主節に対する理由をについて説明することができる。		
	■ グラフについて正しく説明している英文を聞き取り選択する。【1(3)】	59.9 66.9	・ 情景について読まれた英文を聞き取り、一目で状況や場面がわかる絵を選ぶなど、単文レベルの英文を正しく聞き取る機会だけではなく、比べる表現など複数の情報が含まれる英文とグラフとを照らし合わせながら答える機会など、2つのことを同時に整理して聞き取る場面を設ける。
	■ 文脈から判断し、何時に寝たのかを尋ねる疑問文を単文で書く。【9(2)】	12.3 21.2	・ 時間を尋ねたり答えたりする英文は、日常的によく知っているものである。しかしながら、疑問詞を用いたやり取りの英文では、質問文を書くことよりも、答えを書くことが多い。目的や場面、状況を設定したコミュニケーション活動において、状況を推測させたり、適切な表現を判断させたりする場面を設定し、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答をする活動を繰り返し行っていくとともに、尋ねたり答えたりしたことを英語で表現する機会を設定する。
	■ 与えられた状況で、留学先として行きたい国とその理由について英文で書く(構成)【10③】	34.5 44.7	・ 教科書で学習した題材や内容に関連するテーマや身近なニュースなどについて、自分の考えを表出させる機会を設ける。また、文を書く際は、単語や短い文をどんどん書くのではなく、文と文のつながりや全体の流れなどに注意してまとまりのある文章を書くよう促すとともに、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、そう考えた理由や根拠を明確に、論理的に書かせる場面を設ける。

Ⅲ 考察

【国語】

- 小学校で課題であった「一文を二文に」することが、そのまま課題として残っている。課題を解決するためにも「何のためにこの授業を仕組むのか」という「目的意識」を教師が強くとともに、その意識を子どもたちとも共有することが重要となってくる。子どもたちが自分の現状を理解した上で、その現状をどのように克服していくのか、どのように学習していけば課題が解消されるのかを指し示す必要がある。
学力検査結果を授業に有効活用するためには、「この授業でどのような力を付けるのか」という学びについて、シンプルに考えることが大事である。そのためには「単元計画」を立て、「この単元を学ぶとこの力が付く」というゴールを明確にするとともに、評価も考えておく。その上で、単元を構成する一単位時間で、どこまで学ぶのか、そして評価問題をどのようにするのか計画しておく、付ける力がぶれることなく授業を進めることができる。一単位時間で付ける力が明確になれば、子どもたちも本時の学びの振り返りで「主人公の気持ちは情景描写によって読み取れることが分かった」「読み深め方について分からなかったので、復習をしたい」など、学びの内容について言及できるようになる。
「単元計画」を立て、「何を」「何のために」「どのように」学ぶのかを明確にすることが、求められている。

【数学】

- すべての領域で、正答率が全国・県平均を下回っている。特に用語や式が表す意味、あわせて方程式の解き方や基本的な図形の計量等の基本的な知識・技能において県平均との差が大きい。反復練習で定着させるとともに、生徒自身が「なぜそうなるのか」という意味理解を確認するための問い直しや生徒に学びの実感を味わわせるアウトプットの時間が必要になる。また、関数や図形領域は正答率が低いことから、教科書の問題だけでなく、身近な問題を取り扱いながら、「何に活用できるか」という学びの実感を得られる課題を設定することが重要である。最後に、授業構想の基本である単元構成を考える際には単元のゴールまでの見通しをしっかりともち、1時間1時間のつながりを大切に、1時間毎の子どものゴールの姿を明確に持った計画を立てる必要がある。
- 長い問題文からの読み取り問題や問題解決の方法を数学的に説明するなどの記述問題において無解答率が高い。授業の中で問題文の中の数量関係を捉えたり、筋道を立てて考えさせるための見通しを持たせたりするなど、生徒の思考を整理させることが重要である。これは安易にヒントを与えるのではなく、つまりいた生徒への手立てとして準備しておきたい。また、日頃から自分の考えを書く活動を設定することで、書くことへの抵抗感をなくし、教師が生徒の考えを認めていく中で初めて出会う問題にも粘り強く問題に向かう生徒を育成したい。

【英語】

- 「読むこと」においては、要点や概要を読み取り、問いに答えるなどは概ねできているものの、「書くこと」については、基本的な語や文法事項、時制の違い等の知識の定着やそれらを活用することに課題がある。このため、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くときにおいても、自分の考えを相手に伝える英語で表現できていなかったり、単語や単文の羅列になっている場合が多い。授業において、自分の考えを示すことができるよう、主体的に内容を読み取る指導や考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く指導の充実を図ることが重要である。また、「話すこと」においては、音のつながりや文の抑揚など流暢さが大切であるが、「書くこと」においては、表現に関する正確さも必要である。「書く」→「修正する（自分や自分以外の人）」を繰り返すことで、少しずつ正しく書く力が身に付くものと思われる。また、「書くこと」のみならず、すべての設問において、無解答率が県平均より上回っている。特に、人を紹介する英文の作成は、1年生での学習内容にもかかわらず、無解答率が高い。授業の中で、話したり、書いたり、または、話したことを書いたりするなど、技能を統合、工夫し生徒が多く機会を経験させていく中で、表現する楽しさや自信をつけさせるとともに、間違えを臆することなく自分の考えを表出できる生徒の育成を図っていくことも大切である。